

**【令和 7 年度第 1 回】第 3 回宗像市道路網整備計画策定委員会
議事要旨**

■日 時：令和 7 年 9 月 8 日（月）10:00～12:00

■場 所：宗像市役所 3 階 301 会議室

■出席者：

会長	九州工業大学大学院工学研究院 教授	吉武 哲信
副会長	九州大学大学院工学研究院 准教授	大枝 良直
委 員	九州産業大学建築都市工学部建築学科 教授	日高 圭一郎
	国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所 所長	上田 晴氣
	福岡県建築都市部 副理事兼都市計画課長	西 亮（欠席）
	福岡県北九州県土整備事務所宗像支所 支所長	高橋 祥之
	九州旅客鉄道株式会社赤間駅 駅長	出田 貴宏
	一般社団法人宗像観光協会 事務局長	品川 恒徳
	西鉄バス宗像株式会社 取締役運行部長	宮本 英明
	市民代表	合島 明美
	市民代表	伊賀 美穂
	市民代表	國廣 由佳
事務局	宗像市都市管理部施設整備課	西島 彰尚、高山 正利、 佐藤 丈二、井上 建嗣

1. 開会

2. 議事録署名委員の決定

事務局：本日は、委員番号 6 番の高橋委員、7 番の出田委員にお願いしたい。

委員一同：異議なし。

3. 第 3 次道路網整備計画（案）の検討等について

（1）第 2 回策定委員会の振り返り 【資料 1】

委員：P6 「事務局にて再検討（国道 3 号～宗像ユリックスの区間を追加）」について詳細を説明いただきたい。

事務局：宗像市地域防災計画において、宗像ユリックスは重要な機能（市役所機能損壊等において災害対策本部を移転する場合の第 1 順位、臨時ヘリポート等）を有していること、さらに、近年の水災害発生状況等も踏まえ、当該施設へのアクセス機能・代替性強化を図るという主旨から追加するものである。

委員一同：異議なし。

(2) 幹線道路網の整備計画（案）について 【資料1】

- 会長：P30～P34 整備計画（案）に示す施策（アクションプラン）は、今後10年での完成を目指しているのか、それとも10年のうちに着手するということか。
- 事務局：今後10年間で完成を目指す考えである。
- 一方、P30～P34の検討案は現時点で例として示したものであるため、交通課題解消に向けた具体的・効果的な手法については、今後、ビッグデータ解析等を踏まえて検討・精査していく。
- 委員：隣接自治体の計画において地域交通幹線軸等の位置付けがある路線と本計画における幹線道路網（案）に不整合が生じていると思われる箇所があるため、確認すること。
- 事務局：承知した。
- 委員：事故の発生要因等も精査し、道路構造に課題がある箇所・区間等については本計画の具体施策（アクションプラン等）実施の際にあわせて改善するように検討いただきたい。
- 渋滞を解消することは困難であるため、一定の混雑や渋滞は許容することしつつ、施策（アクションプラン）を検討すること。
- 渋滞の解消を目的とした場合、道路交通容量を増加させる必要が生じることから、過大な道路整備を行ってしまう点が懸念される。加えて、その道路整備によって、新たな交通課題が生じる可能性もあるため、新たな道路整備は慎重に検討すること。
- 会長：ETC2.0データが活用できた場合、急ブレーキ発生箇所の把握、事故要因の分析・シミュレーション等が可能となる見込み。
- 今後の追加のデータ分析等を踏まえ、具体的な施策については、引き続き、精査・検討することとし、現時点では、課題の箇所・区間と大まかな対応の方向性を共有することとする。
- 委員：道路冠水等の災害リスクが潜む区間でありながら、整備優先度が高くない区間がみられる。当該区間については、当面は整備しない方向性か。
- 事務局：道路冠水の軽減に係る視点として、「宗像市雨に強いまちづくりビジョン」で示す目標整備水準に基づく施設整備を実施することを前提とし、両計画でそれぞれ役割分担しながら、道路冠水の軽減を図る考え方である。
- 会長：当計画書（案）には、「宗像市雨に強いまちづくりビジョン」が担う役割・対策を判りやすく整理・記載すること。
- 委員：基本方針「災害に備えた道路機能の確保」を踏まえ、宗像市役所周辺と国道3号とを結ぶ区間において、多重性を強化する必要があると考えることから、改めて検討すること。
- 会長：宗像ユリックスについては、「拠点」への位置づけも含め検討すること。
- 事務局：承知した。

(3) 中心拠点等の整備計画（案）について 【資料1】

委 員：P35～P37 道路幅員の整理について、改めて確認・精査すること。
事 務 局：承知した。

(4) 幹線道路網整備計画のモニタリング指標（案）について 【資料1】

会 長：各目標値（案）の妥当性については改めて精査すること。
事 務 局：承知した。
会 長：アクションプランは10年、モニタリング指標は20年という認識か。
事 務 局：その通り。本計画の計画期間は20年であり、モニタリング指標は20年後の目標とし、アクションプランは前期10年の目標として設定するもの。
会 長：概ね10年後には計画の見直しについて検証を行い、必要に応じ、更新や改訂を実施するということか。
事 務 局：その通り。
委 員：旧国道3号の混雑要因について整理・分析できているのか。例えば、道路の交通量が要因か。
事 務 局：旧国道3号の混雑要因について、交通量のほか、信号サイクルや沿道からの流出入等の要素が複合的に関係しているものと推測しているが、現時点では特定に至っていない。今後、ビッグデータを活用する等、解析を進めたい。
委 員：例えば、道路の交通量は変わらずとも、右折レーンやバスカットの設置等により混雑緩和が図られる場合もあると考える。
事 務 局：旧国道3号は都市計画道路として計画決定されているため、今後の整備推進とあわせてご指摘の件についても検討していきたい。
委 員：P41「②国道3号の平均速度（平日）の目標値の考え方」では、令和3年度全国道路・街路交通情勢調査における平均速度が示されている。一方、当該調査時期はコロナ禍の出控えしている時期に実施されているため、特異値となっている場合があることから、平成27年度の調査結果も踏まえて、目標値の妥当性について再検証すること。
また、道路交通法の改正により、生活道路における法定速度が60km/hから30km/hに引き下げられることとなる。この法改正の主旨を踏まえ、目標値について、再検討すること。
さらに、P45「②橋梁長寿命化修繕計画の進捗率」の「指標の考え方・意味」について、「事後保全から予防保全への転換・移行」等の表現の方がより適切と考えるため、提案する。
最後に、P40のみ「KPI (Key Performance Indicator)」と記載されているが、馴染みがない表現であると考えるため、用語の表記について再検討すること。
事 務 局：承知した。

(5) その他全般

- 委 員：資料1内P2「最近のトピックス〔今後の課題〕」に「歴史・観光軸、街道軸」とあるように、宗像市では「日本風景街道（ちょっとよりみち唐津街道むなかた）」など、歴史資源を活かした、地域の方の自発的な取り組みがみられる。本計画にもこのような活動を記載するなど、取り組みの支援を検討いただきたい。
- 事 務 局：承知した。本市では「歴史的風致維持向上計画」を策定し、歴史文化資源を活用したまちづくりに取り組んでいるところであり、ご指摘の件についても配慮しながら進めていきたい。
- 委 員：隣接市町ではサイクリングロードという位置づけがある。宗像市も「自転車のまち」として、各種の取り組みを推進していただくことを期待している。本計画では、サイクリングロードや自転車道に関する方向性はどのように示すのか。
- 事 務 局：「道路整備のあり方・留意点（幹線道路以外を含む）」において、方向性等を示す考えである。
- 会 長：今後、自転車の利用促進に係る「自転車ネットワーク計画」等、計画を策定し具体的な取り組みが推進されることを期待する。

4. 次回の開催予定日等について

- 事 務 局：次回会議の開催は令和8年1月頃を予定している。
なお、現在申請中の公募案件に採択された場合は、全6回の開催へと追加変更を予定している。

5. 閉会

以上